

ファッションとアート、 伝統と前衛

バレンシアガの目を通して見るスペイン

CRISTÓBAL BALENCIAGA



このガイドの内容はミラノのスペイン観光局によって作成されました。改善にご協力ください:
誤りを見つけた場合は、下記までご連絡ください。milan@tourspain.es

NIPO 219-25-012-7

ファッションとアート、 伝統と前衛

バレンシアガの目を通して見るスペイン

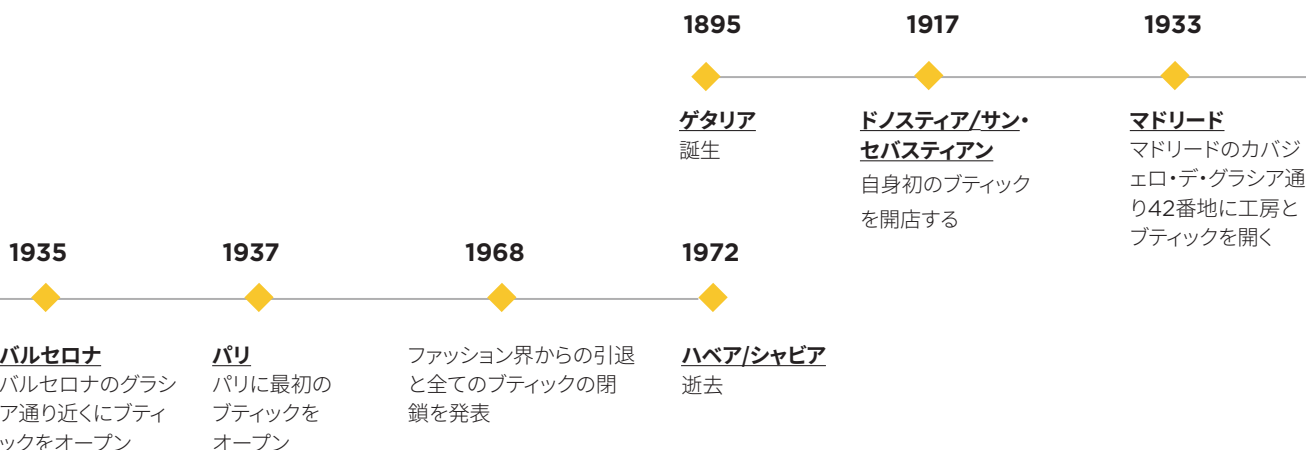


クリストバル・バレンシアガ

クリストバル・バレンシアガは、バスク地方の小さな漁村ゲタリアで生まれ、オートクチュール界で最も影響力のあるデザイナーの一人でありながら、スペインの文化と芸術の伝統にも深く根ざしています。

バレンシアガは幼い頃から豊かな文化的遺産に囲まれて育ち、それが彼の美的感覚と創造のプロセスを形作りました。バレンシアガの母親はカーサ・

トーレス侯爵夫人の裁縫師で、ビスタ・オナ宮殿で働き、そこで彼は芸術と古典的なエレガンスに触れることになります。この環境は、伝統への敬意と時代を超えた現代性を組み合わせたユニークなスタイルの基盤を形成しました。





▲ ホセ・オルティス・エチャグエ
シラスウナギ漁師、1924年
ナバラ大学博物館。VEGAP。2025

伝統と民間伝承

スペインの豊かな伝統は、常にバレンシアガにとって尽きることのないインスピレーションの源となっています。闘牛士の衣装、儀式や宗教で使われるマンティラ、マニラショールは、彼の創作言語の重要な要素となりました。これらは、刺繍やレースなどの装飾的なディテールにおいて彼にインスピレーションを与えただけでなく、彼のデザインの構造にも影響を与えており、そのボリュームと形状から大衆ファッションの本質を感じることができます。

バレンシアガ博物館が企画した「チャコールとベルベット」展では、民族衣装がこのデザイナーの手でどのようにオートクチュールに再解釈されたのか、写真家オルティス・エチャグエの伝統的なスペインに対するロマンチックなビジョンと対話する形で紹介されました。彼の写真の遺産は、スペインをテーマにした写真と現代美術のコレクションを所蔵するナバラ大学博物館で鑑賞することができます。<https://museo.unav.edu>

バレンシアガはさまざまな時代の伝統的な衣服を収集し、自国の文化的ルーツに対する深い敬意と関心を示しました。バレンシアガは、イザベル・デ・バレンシアの著書『スペインの地方の衣装』(1925年)からインスピレーションを得て、多くのコレクションを制作したことで知られています。スペインのケープ、マント、バスキーニャが彼の多くの作品にインスピレーションを与えたことがわかります。

バレンシアガとフラメンコ

フリルや水玉模様、鮮やかな色彩が特徴のフラメンコもコレクションで重要な役割を果たし、この芸術形態の情熱とエネルギーを再解釈しました。



▲ アントニオ・マリア・エスキベル・イ・スアレス・デ・ウルビナ
フラメンコダンサー、ホセファ・バルガス、1850年
キャンバスに油彩、91 × 72 cm
アルバ公爵のコレクション。
ドウエニャス宮殿、セビリア



1938年、ハーパーズ バザー誌は次のような記事を掲載しました。

「彼のコレクション全体にスペインの雰囲気が漂っています。」

◀ カクテルドレス、1955年
タフタと刺繍入りコットンリボンのコレクション「ソンソレス・ディエス・デ・リベラ・イ・デ・イカス」
ヘタリアのクリストバル・バレンシアガ博物館



▲ イブニングドレス、1952年
タフタ
ヘタリアのクリストバル・バレンシアガ博物館

イグナシオ・スロアガ ▶
マリア・デル・ロサリオ・デ・シルバ・イ・グルトゥバイの肖像、
アルバ公爵夫人、1921年
キャンバスに油彩、204 × 178 CM
カサ・デ・アルバ財団。リリア宮殿、マドリード



J. Zuloaga

バレンシアガとスペイン絵画

ディエゴ・ベラスケス、フランシスコ・デ・ゴヤ、フランシスコ・デ・スルバラン、エル・グレコといったスペイン絵画の巨匠たちは、バレンシアガの作品にとって欠かせない重要な存在でした。ベラスケスの肖像画の控え目な荘厳さ、スルバランが描いた布地の質素さ、エル・グレコの人物画の強烈な色彩と細長い線、そしてゴヤの演劇性とドラマ性は、彼の作品に深く影響を与えました。これらのアーティストはそれぞれ独自の要素を持ち寄り、デザイナーは構造的なボリュームや質感から装飾的なディテールやカラーパレットに至るまで、それらを巧みに衣服に再解釈しました。



▲ イブニングドレス、1963年
サテン、パール、ビーズ
ヘタリアのクリストバル・バレンシアガ博物館

絵画界の巨匠たちの影響

エロイ・マルティネス・デ・ラ・ペラがキュレーターを務めた、ティッセン＝ボルネミッサ美術館の「バレンシアガとスペイン絵画」展では、デザイナーが16世紀から20世紀の絵画の伝統を再解釈し、その形、ボリューム、ディテールをモダンで前衛的なビジョンでオートクチュールに取り入れた方法が強調されました。

- ◀ **フランシスコ・デ・ゴヤ**
ペティコートを着たマリア・ルイサ女王、1789年
キャンバスに油彩、205 × 132 CM
マドリードの国立プラド美術館



クリストバル・バレンシアガは驚くべきことを成し遂げました。スペインの文化的、芸術的な伝統を現代的かつ普遍的な視点で再解釈しています。闘牛場から修道院のフレスコ画に至るまで、また、マンティージャからフラメンコのフリルに至るまで、バレンシアガの作品は自身のルーツとの深い結びつきと、それを未来に投影する生まれ持った才能を反映しています。これにより、彼は単なるデザイナーではなく、20世紀の視覚文化の真の建築家となったのです。

◀ フランシスコ・デ・スルバラ

フライ・フランシスコ・スメル、1628年頃

王立サン・フェルナンド美術アカデミー美術館、マドリード

- ▼ ウェディングドレス、1960年
サテンとミンク。寄付：セニョーラ・ドニャベルギーのファビオラ
ヘタリアのクリストバル・バレンシアガ博物館



ディエゴ・ベラスケス、フランシスコ・デ・ゴヤ、フランシスコ・デ・スルバラ、エル・グレコといったスペイン絵画の巨匠たちは、バレンシアガの作品にとって欠かせない重要な存在でした。



▲ カクテルドレス、1955年～1960年頃
シルクオーガンザとベルベットのブロケード
服飾博物館。マドリード
文化スポーツ省

フランシスコ・デ・ゴヤ ▶
白い衣装のアルバ公爵夫人、1795年
キャンバスに油彩、194 × 130 CM
カサ・デ・アルバ財団。リリア宮殿、マドリード



Alfonso Bujarrabal
Alba F. de
Goya 1795

彼の伝記に登場する場所

1895

ゲタリア

漁師の地

クリストバル・バレンシアガは、風光明媚な魅力、漁業の伝統、そしてこのデザイナーとの密接なつながりで知られるバスク地方の海岸の小さな町、ゲタリアで1895年に生まれました。彼は、最初の教師であった母親と、海で命を落とした漁師の父親の影響を受けて成長しました。

バレンシアガの母親はカーサ・トーレス侯爵家のドレスメーカーとして働いており、そのおかげでクリストバルは幼い頃からファッション、エレガンス、洗練されたテイストの世界に触れることができました。カーサ・トーレス侯爵夫人は彼の才能に感銘を受け、彼の最初の顧客の一人となり、

▼ ゲタリア湾と港の眺め





▲ ヘタリアのクリストバル・バレンシアガ博物館

その持って生まれた才能を磨くよう励ましました。バレンシアガが弱冠12〜13歳のときに縫製したドレスを着て侯爵夫人がゲタリアの教会のミサに参列し、これが彼の才能が認められ始める鍵となる瞬間だったとの逸話も残っています。現在、ゲタリアにはク

リストバル・バレンシアガ博物館があり、彼の芸術的な遺産を理解する基準点となっています。美術館では彼の作品の常設コレクションのほか、現代ファッションに与えた影響を探る企画展も開催しています。

→ ホテル

ホテル イトゥレギ
hoteliturregi.com

チャコリのブドウ畑に囲まれ、カンタブリア海を見渡す古い田舎の家。わずか8室ながら、自然に囲まれた静かで落ち着いた雰囲気を楽しむことのできる客室が用意されています。

→ レストラン

エルカノレストラン
restauranteelkano.com

1964年以来、アイトール・アレギが率いるグリル料理のシンボル。ここでは、イシビラメのほか、磯の魚、青魚、ココチャ、伊勢海老などのシーフードが有名です。歴史、製品、伝統を知る上で欠かせない場所です。

1919

ドノスティア / サン・セバスティアン



▲ ラ コンチャ ビーチ、ドノスティア/サン セバスティアン

上流社会の休暇地

1917年、バレンシアガはわずか22歳で、ヨーロッパの上流社会が集い、スペイン王室のお気に入りの夏のリゾート地としても知られる、エレガントで活気のある国際的な都市、ドノスティア/サン・セバスティアンに最初の工房をオープンしました。この状況は若きクリストバル・バレンシアガに大きな影響を与え、彼は街の最も著名な女性たちのためにドレスを作り始め、その技術と洗練された美的感覚を磨き上げました。

有名なラ・コンチャ・ビーチやイゲルド山(彼が亡くなるまで彼の母親と妹が住んでいた場所)、レアル・クラブ・ナウティコ(1929年にオープンした合理主義建築の建物)など、市内にはバレンシアガの日常の風景の一部となった数々の象徴的な場所があります。

→ ホテル

ホテル マールア クリスティーナ **marriott.com**

このホテルは1912年にサンセバスティアンにオープンし、ベルエポック時代にこの街の観光を促進したハプスブルク家のマリア・クリスティーナ女王にちなんで名付けられました。この象徴的な5つ星ホテルは、マドリッドとパリのリッツを設計した建築家チャールズ・ミューズによって設計されました。現在、このホテルはマリオットの傘下であり、ラグジュアリーとエレガンスを象徴するラグジュアリーコレクション(The Luxury Collection®)の系列となっています。

ホテル「ニーサ」 **hotelniza.com**

地元の有名な芸術家、エドゥアルド・チリーダの家族が経営するホテル「ニーサ」は、サン・セバスティアンのラ・コンチャ通りに位置します。チリーダの祖母、フアナ・エグレン・ハウレギも、歴史あるホテル「ピアリッツ」のオーナーでした。

→ レストラン

レストラン「アルサック」 **arzak.es**

バスク料理界の第一人者、フアン・マリ・アルサックは、ミシュランの星を3つ、レプソルの太陽を3つ獲得し、美食の頂点に立っています。現在、レストランと料理研究センターは彼の娘であるエレナ・アルサックが経営にあたり、究極の料理を求めて1,000を超える様々な味覚の料理に取り組んでいます。

レストラン「アケラーレ」 **akelarre.net**

イゲルド山に位置するレストラン「アケラーレ」。ペドロ・スビハナが経営するこの店は、スペインにあるレストランの最高峰の1つとされています。ミシュランの星を3つ、レプソルの太陽を3つ獲得しています。2017年には、バスクの高級料理と贅沢なおもてなしを融合させたホテル「アケラーレ」もオープンし、ミシュラン3つ星レストランを併設した、世界でも数少ないホテルの1つとなっています。



▲ BOXの皮革製品を扱う新ショップの外観、
ドノスティア/サン・セバスティアン

ポンソル

www.casaponsol.com

1838年に創業した、スペイン最古の帽子店です。「女性用の帽子、ベレー帽、あらゆる種類の髪飾り」販売開始。

→ 買い物

ミニミル

<https://minimil.es>

1987年にクリストバル・バレンシアガの影響を受けてコンチュ・ウズクドゥンによって設立され、現在は娘のアナとベアトリスによって運営されているブランドです。Minimilは、ウール、コットン、カシミア、シルクなどの高品質な生地重点を置いています。

ボックス サンセバスティアン

www.boxsansebastian.com

ファッション職人の子孫であるヘラルド・ゴンザレスは、職人の伝統と高品質の革を組み合わせたブランド、BOXサンセバスティアンを設立しました。彼のバッグは、1977年にデザインされたジッパーの引き手や、1989年に導入された砂色のジャカードの裏地など、街の建築物やビーチからインスピレーションを得たディテールで、この街にオマージュを捧げています。



→ 見どころ・アクティビティ

チリダ・レク museochillidaleku.com

サン・セバスティアン近郊のエルナニにあるこの美術館には、彫刻家エドゥアルド・チリーダの代表的な作品が収蔵されています。この芸術家自身によって設立された美術館は、16世紀の農村の集落と独自の自然環境を繋いでいます。彼の彫刻作品は主に11ヘクタールの敷地にある屋外に展示されています。この美術館は、芸術と自然が融合する、未来の世代のための出会いの場となることを目指しています。

バレンシアガは、ギブスコア出身の彫刻家エドゥアルド・チリーダと個人的かつ芸術的な関係を維持していました。この絆は1990年にチリーダがバレンシアガに「オマージュ・トゥ・バレンシアガ」という彫刻を捧げたことで不滅のものとなりました。この彫刻は二人の間の尊敬と芸術的親和性を象徴し、現在チリーダ・レク美術館に展示されています。



▲ エルナニのチリーダ・レク美術館

1933

マドリード



▲ © プラド美術館、マドリード

1933年、バレンシアガはカバジェロ・デ・グラシア通り42番地に自身の店をオープンしました。豊かな芸術と文化の伝統を持つマドリードは、彼の作品に大きな影響を与えました。彼は友人たちとプラド美術館によく通い、古典スペイン絵画のエッセンスを吸収し、それが彼の作品にも表れています。彼はそのキャリアの中で、市内の骨董品市場で購入した歴史的な衣服を収集

した。民族衣装にインスピレーションを受けたバレンシアガは、ケープに対して特別な愛着を示しました。マドリードの有名なケープ専門店「カバス・セセーニャ」では、伝統衣装であるケープの究極の表現に出会うことができます。

→ ホテル

リッツ・マドリード ritzmadrid.com

マンダリン オリエンタル リッツ マドリードは、ベルエポック様式と現代的な設備を兼ね備えた、2021年に改装された歴史ある5つ星ホテルです。ユネスコ世界遺産の「光の風景」の中心に位置し、プラド美術館とレティーロ公園に隣接する素晴らしい立地を誇ります。ミシュラン2つ星を獲得したレストラン「Deessa」をはじめ、キケ・ダコスタ・シェフ監修による様々なグルメも堪能できます。屋内プール、ジム、豪華なスパも併設しています。

フォーシーズンズ マドリード fourseasons.com/madrid

2020年にオープンしたフォーシーズンズ・ホテル・マドリードは、復元された7つの歴史的建造物を利用した5つ星ホテルで、街の中心部のプエルタ・デル・ソル広場とラス・レトラス地区の間という、絶好のロケーションにあります。広々とした豪華なスイートルーム、ダニ・ガルシアが経営するテラス付きのレストラン、4フロアに展開する高級スパを備えるこのホテルは、歴史と現代性が融合した唯一無二の空間を提供します。

→ 見どころ/アクティビティ

国立プラド美術館 museodelprado.es

ゴヤ、ベラスケス、スルバラン、エル・グレコの重要な作品が収蔵されています。

→ レストラン

ダイバーXO diverxo.com

シェフのダビズ・ムニョスが率いるこのレストランは、マドリードで唯一ミシュランの三つ星を獲得したレストランです。その前衛的で型破りな料理で知られています。提案されている料理体験は、革新的な技術と世界中の味を組み合わせ、真の美食のスペクタクルを提供します。

コケ restaurantecoque.com

マリオ・サンドバルシェフが率いるミシュラン2つ星レストランでは、モダンで洗練された空間で、臨場感あふれるダイニング体験をお楽しみいただけます。このサービスは、ワインセラー、キッチン、ダイニングルームまでお客様を案内します。チャンベリ地区に位置し、革新的な調理法と地元の食材およびスペインの伝統への深い敬意を融合させ、首都の高級料理の基準となっています。

ティッセン ボルネミッサ国立美術館 museothyssen.org

ルネッサンスから現代美術まで幅広いコレクションを所蔵しています。



▲ イブニングドレス、1962年
シルククロッケ。寄付：
マルティネス・デ・アルメイダ夫人 1979年
バルセロナのデザインミュージアム



エル・グレコ ▲
救世主、1610年頃、キャンバス地油彩
エル・グレコ美術館。トレド

リリア宮殿

palaciodeliria.com

アルバ家の邸宅であり、スペイン美術の重要な作品が展示されています。

サンフェルナンド王立美術アカデミー美術館

realacademiabellasartessanfernando.com

この美術館には、ゴヤ、エル・グレコ、スルバランなどのスペイン絵画の巨匠たちの作品を含む、1,400点を超える絵画、1,300点の彫刻、15,000点の素描や版画の優れたコレクションが収蔵されています。

王室コレクション

galeriadelascoleccionesreales.es

2023年にオープンしたこの美術館は、スペイン王室によるメセナ活動を最高の形で表現するもので、王室コレクション（国有遺産）として所蔵されている非常に重要な作品を展示しています。

エル・グレコ美術館（トレド） cultura.gob.es/mgreco

クレタ島の画家とその作品に捧げられたこの本は、バレンシアガに対する彼の影響を理解する上で不可欠です。

→ ショッピング

カパス・セセーニャ sesena.com

1901年以来、この店のケープはパブロ・ピカソ、ルイス・ブニエール、ヘミングウェイ、カトリヌ・ドヌーヴ、ジェーン・フォンダ、スペイン王室をはじめ、多くの人々に愛用されてきました。1世紀以上経った今も、彼らはマドリッドでクラシックとモダンのスタイルでユニークかつエレガントな作品を手作りし続けています。



▲ カパス・セセーニャ、アルバロ・ロペス・デル・セーロ、マドリッド



▲ カサ・ディエゴ、アルバロ・ロペス・デル・セーロ、マドリッド

マリアナ・バルトウレン @marianabarturencouture

1940年代にバレンシアガが使用したのと同じ型と道具を使って、花びら1枚1枚シルク フラワーを手作りする、世界でも数少ない2つの工房のうちの1つです。帽子やアクセサリを製作し、オートクチュールフラワーメイキングの専門コースも開講しています。

オリヴィエ・ベルヌー olivier-bernoux-shop.com

エレガントなラス サレサス地区に位置するオリヴィエ ベルヌーの工房では、伝統と現代性が融合し、黒檀、オリーブの木、イタリアのシルクなどの上質な素材を使用してスペインで手作りされたオートクチュールの扇子やハンドバッグを提供しています。彼はマドンナ、ペネロペ・クルス、サラ・ジェシカ・パーカーなど著名な顧客のために作品を制作してきました。

1935

バルセロナ



▲ バルセロナのゴシック地区

1935年、バレンシアガはグラシア通りの近くに店を開き、バルセロナを彼のキャリアのもう一つの中心地としました。バルセロナの文化シーンはガウディの壮麗なモダニズムや、ピカソやミロといった芸術家の輝く才能によって特徴づけられ、バレンシアガに対して

尽きることのない芸術的インスピレーションを提供し、それは彼の大胆かつエレガントなデザインに反映されました。サンタ・テレサ通り10番地には、バレンシアガの功績を讃える小さな記念プレートが設置され、バレンシアガの存在を現代の人々の記憶に刻む場所として公開されています。

→ ホテル

マンダリン オリエンタル バルセロナ mandarinoriental.com/barcelona

マンダリンオリエンタルバルセロナは、有名なグラシア通りに位置する豪華な5つ星ホテルです。120室のエレガントな客室とスイート、豪華なスパ、市街のパノラマの景色を望む屋上プール、ミモザと呼ばれる中庭を備えています。カルメ・ルスカイエーダ・シェフとその息子ラウル・バラムが経営するレストラン「モメンツ」は、ミシュラン2つ星を獲得しています。

Wホテル www.w-barcelona.com

Wバルセロナは、建築家リカルド・ボフィルが設計した豪華な5つ星ホテルで、特徴的な帆の形が街の象徴となっています。ラ・バルセロネータのビーチに位置し、地中海のパノラマビューとバルセロナのシティビューを楽しむことができます。施設には、インフィニティ プール、2階建てのスパ、いくつかの高級レストランなどがあります。

カサ・ミラの近景 - ▶
ラ・ベドレラ、バルセロナ



→ レストラン

ディスフルタル disfrutarBarcelona.com

「ディスフルタル」は、伝説的なレストラン「エルブジ」の元シェフであるオリオル・カストロ、エドゥアルド・ザトルフ、マテウ・カサニャスが経営するバルセロナの前衛的なレストランです。ミシュランの3つ星を獲得したこのレストランは、革新的で創造的、そして技術的な美食体験を提供しており、主要な国際ランキングで世界最高のレストランの1つに数えられています。

アルキミア alkimia.cat

ジョルディ・ビラ・シェフが経営するミシュラン1つ星を獲得したこのレストランは、カタルーニャ料理の伝統を独創性と優雅さで再解釈しています。バルセロナの歴史的なファブリカ・モリッツに位置し、歴史的な雰囲気の中でモダンな料理を提供しています。

→ 見どころ・アクティビティ

ミロ財団 fmirobcn.org

1975年にバルセロナにオープンしたミロ財団には、絵画、彫刻、タペストリーなど、ジョアン・ミロの作品の膨大なコレクションが収蔵されています。モンジュイックに位置するこの建物は、建築家ジョセップ・ルイス・セルトによって設計され、ユニークな環境の中で芸術と建築が融合されています。

ピカソ美術館 museupicasso.bcn.cat

この美術館には、芸術家の形成期と青年期を反映した4,200点以上の作品が収蔵されており、彼の芸術的発展を理解する上で不可欠です。モンカダ通りにある5つの中世の建物に位置し、カタルーニャの民間ゴシック建築として目立っています。



▲ バルセロナピカソ美術館

→ ショッピング



ラ・マヌアル・アルパルガテラ lamanual.com

1940年に設立されたLa Manual Alpargatera de Barcelonaは、伝統的かつ現代的なエスパドリーユの職人技の基準となっています。

コリーナ オートクチュール 刺繍 haute couture embroidery Barcelona.com/

リュネヴィル刺繍とクリエイティブなオートクチュール刺繍を専門とするプロの刺繍ショップと工房。少人数グループ向けの特別な入門ワークショップを提供します。天然シルクオーガンザ、ベルベット、シフォン、チュール、シルクなどの上質な素材を使用し、シルク、コットン、金糸、銀糸で装飾されたユニークな作品を購入したり、独自の作品を作る方法を学んだりすることができます。

帽子専門店「ミル」 sombreneriamil.com

1917年に創業したバルセロナ最古の帽子店です。フォンタネッラ通り20番地に位置するこのブティックは、帽子、キャップ、アクセサリーを専門とし、自社工房で手作り製品やカスタマイズ、修理サービスを提供しています。

手袋専門店「アロンソ」 guanteria-alonso.com

創業1905年の手袋専門店「アロンソ」は、バルセロナのモダニズムの伝統を象徴する存在です。手作りの手袋やアクセサリーを専門とし、フォーマルバッグ、ストール、マフラー、帽子、財布などの商品を取り揃えています。

1972

ハベア/シャビア



▲ ハベア/シャビアの歴史的な中心部の通り

クリストバル・バレンシアガの人生は、幼少期のカンタブリア海から晩年の地中海まで、海と深く結びついていました。彼は1970年代初頭にハベア / シャビアを発見し、その港、ビーチ、そして故郷のゲタリアを思い出させるカナオ岬灯台に魅了されました。旧市街の石畳の道を散歩するのが大好きだったバレンシアガは、アリカンテ地方のファッションや伝統的な織物の魅力にとりつかれていました。

ハベア/シャビアは、ドノスティア/サンセバスティアンの上流社会の友人や知人が夏をそこで過ごすなど、家族的な雰囲気があり、まるで自分の家にいるかのように感じました。彼は、ファッションの中心地の慌ただしい生活とは対照的に、地元の米料理、地中海の雰囲気、そして街のゆったりとしたペースに魅了されました。温暖な気候は彼の変形性関節症の痛みを和らげ、バレンシアガはここに長期滞在し

たいと考えるようになり、現地で何軒かの家の下見までしました。しかし、パラドール・ナシオナル・デ・ツーリズムに滞在中に心臓発作を起こし、バレンシアに搬送され、3月23日から24日にかけての夜に亡くなりました。

アリカンテのコスタブランカに位置するハベア/シャビアは、透き通ったビーチ、グラナデラやポルティチヨルなどの入り江、モンゴ公園やナオ岬などの豊かな自然環境で有名です。この景色はソローリャなどの芸術家にインスピレーションを与え、彼らはハベア/シャビアの光と美を様々な作品で形にしました。この地の文化遺産を祝う地元のギャラリーやイベントを通じて、芸術的伝統は今も生き続けており、地中海の自然からインスピレーションを求める人々にとって理想的な隠れた名所となっています。



▲ ナオ岬、ハベア/シャビア

→ ホテル

パラドール・デ・ハベア parador.es

アレナルビーチに隣接するパラドール・デ・ハベアは海の眺めが素晴らしく、米や新鮮な魚を使った地中海料理を提供するレストランや屋外プールが併設されています。居心地の良い雰囲気と海を見渡す絶好のロケーションのお陰で、コスタ・ブランカで随一の人気宿泊施設となっています。

→ レストラン

ボナンプ bonamb.com

復元されたカントリーハウスを利用したこのレストランは、アルベルト・フェルス・シェフの指揮の下でミシュラン2つ星を獲得しています。



▲ パラドール・デ・ハベア

→ 見どころ・アクティビティ

展望台のルート

xabia.org/ver/1516/Miradores.html

このルートは、サン アントニオ岬からカラ グラナデッラまでの海岸沿いの15か所の展望台を通り、地中海、崖、入り江の素晴らしい景色を楽しめます。車、自転車、徒歩での探索に最適です。

ナオ岬

xabia.org/ver/1539/Cap-de-la-Nau.html

ナオ岬はバレンシア海岸の最東端に位置し、豊かな生物多様性、植物の微小保護区、地中海の入り江で知られています。

絹取引所(バレンシア)

lonjadevalencia.com

ユネスコの世界遺産に登録されている絹取引所は、バレンシアの民間ゴシック建築の至宝であり、15世紀のこの都市の商業的富を反映しています。

靴博物館(アリカンテ県エルダ)

museocalzado.com

この博物館では、スペイン最大の靴のコレクションを見学でき、靴製造の機械設備、情報データ、図書、歴史など、靴の世界に関するあらゆる側面を網羅しています。

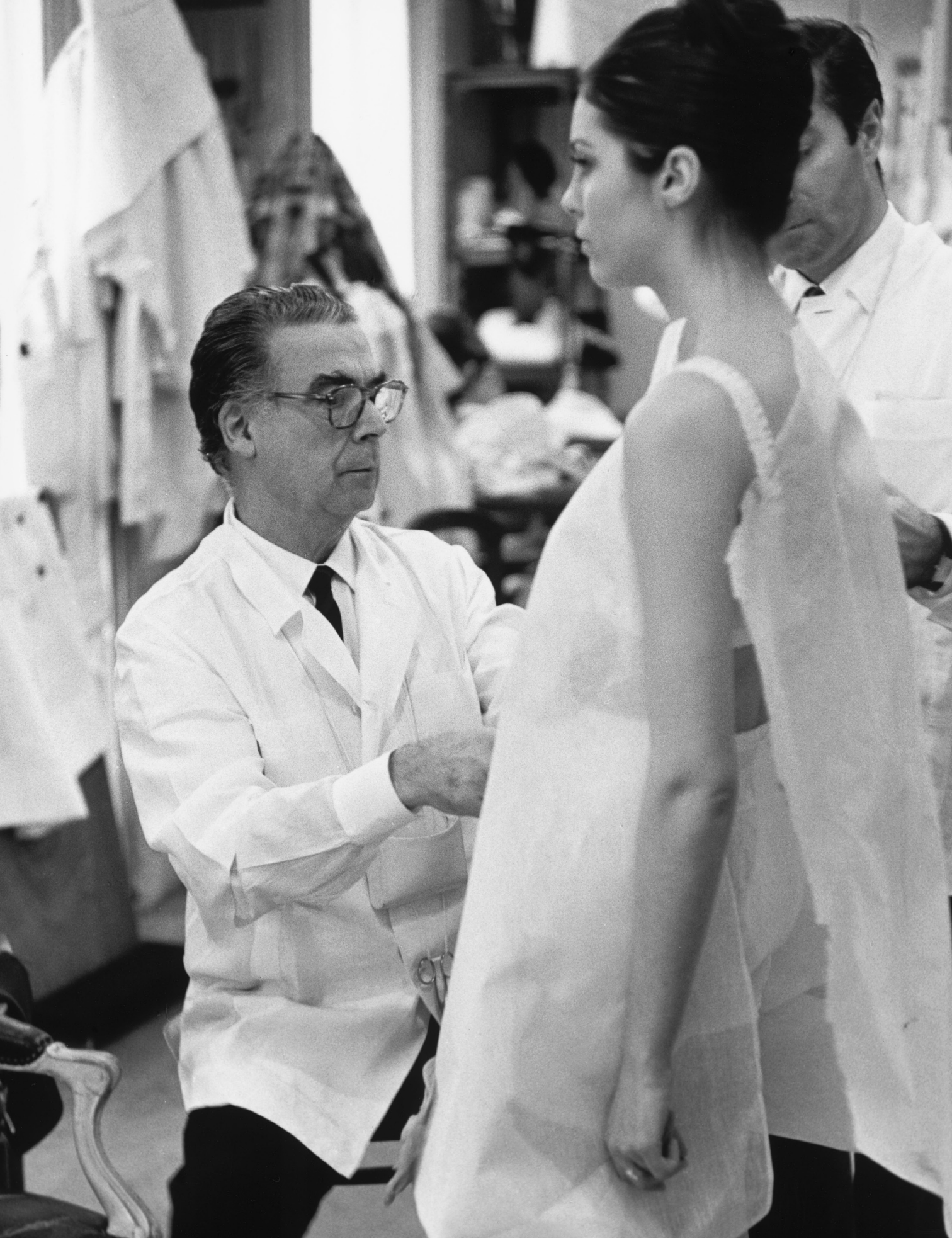
→ ショッピング



ガタ・デ・ゴルゴスの籠細工(アリカンテ)
turismegata.com

Gata de Gorgosの職人によるバスケットは、何世紀にもわたる伝統を反映しており、天然素材で手作りされています。機能性と地中海の美しさを兼ね備えたデザインです。





バレンシアガの遺産

クリストバル・バレンシアガの遺産は、国際的なオートクチュールの中に生き続けています。彼はジバンシィやパコ・ラバンヌといった著名なデザイナーの師でした。その素晴らしいデザインは、現在ではゲタリ

アのクリストバル・バレンシアガ博物館だけでなく、マドリードの服飾博物館、バルセロナのデザイン美術館、さらに、規模は小さくなるもののタラッサの織物博物館でも鑑賞できます。

クリストバル・バレンシアガ美術館 (ゲタリア) cristobalbalenciagamuseoa.com

バレンシアガの故郷にあるクリストバル・バレンシアガ博物館は、彼の遺産を理解するための重要な場所です。彼の作品の常設展示に加え、現代ファッションに与えた影響を探る企画展も開催されています。

デザインミュージアム (バルセロナ) museudeldisseny.cat

この博物館では、ファッション、グラフィック、製品、装飾芸術のコレクションを通じてデザインの創造性を探求します。デザインの歴史と現代文化を繋ぐ革新的な空間です。

衣装博物館 (マドリード) culturaydeporte.gob.es/mtraje

この博物館はファッションと衣服の歴史に特化しており、伝統的な衣服から現代的なデザインまで幅広いコレクションを所蔵しています。スタイルの進化とその文化的影響を分析する展示やアクティビティを提供します。

織物博物館 (テラッサ、バルセロナ) cdmt.cat

この博物館は、歴史的な織物、衣服、機械の膨大なコレクションを通じて繊維の遺産を保存し、推進しています。また、織物の伝統と現代のイノベーションを結びつける展示や活動も提供しています。

クレジットと謝辞

クリストバル・バレンシアガ博物館

ミレン・ビベス氏、クリストバル・バレンシアガ美術館館長
イゴール・ウリア氏、クリストバル・バレンシアガ美術館コレクションディレクター

ティッセン ボルネミッサ国立博物館

ポーラ・ルエンゴ、キュレーター兼展示マネージャー

ナバラ大学博物館

イグナシオ・ミゲリス、キュレーター兼責任者
コレクション・展示部門

国立プラド美術館

エル・グレコ美術館、トレド

カサ・デ・アルバ財団

サンフェルナンド王立美術アカデミー美術館

ハビエル・エチェベリア氏、展覧会キュレーター

「スペインからのバレンシアガシューズトリビュート」、パラッツォ・モランド、ミラノ

エロイ・マルティネス・デ・ラ・ペラ氏、展覧会キュレーター

「バレンシアガとスペイン絵画」、ティッセン＝ボルネミッサ国立美術館、マドリード

展覧会キュレーターのアナ・バルダ氏

「チャコールとベルベット」クリストバル・バレンシアガ美術館、ゲタリア

ジョン・カゼナヴ、写真家

このガイドに掲載されている衣服の写真。

編集調整

ミラノのスペイン観光局、Turespaña

表紙デザインとレイアウト

カルメン・ロペス・カストロ

